公益社団法人 環境科学会 2013 年会

プ ロ グ ラ ム

公 益 社 団 法 人

環 境 科 学 会

公益社団法人 環境科学会 2013 年会

日　時：2013 年 9 月 3 日（火）～ 9 月 4 日（水）

会　場：静岡県コンベンションアーツセンター「GRANSHiP（グランシップ）」
〒 422-8005 静岡県静岡市駿河区池田 79-4
http://www.granship.or.jp/parking/index.html

交　通：JR 東静岡駅南口に隣接，メインエントランスまで徒歩約 3 分です。
詳細は次ページのアクセス案内をご参照ください。

参加費：当日「**受付**」で参加票に必要事項をご記入の上，下記の参加費（講演要旨集代を含む）を添えて参加登録をお願い致します。（事前に WEB から参加登録をされた方は，当日の参加票のご記入は不要です。確認メールの「参加証」に参加費を添えて受付で手続きをお願い致します。）

正会員	6,000 円	準会員	3,000 円
非会員	9,000 円	非会員学生	5,000 円

懇親会：9 月 3 日（火）18：00 ～ 20：00
パーティールーム　KIRAKU PLACE 昭和町
〒 420-0033 静岡県静岡市葵区昭和町 1-8 炙の介 3F（JR 静岡駅北口　徒歩 8 分）
Tel: 054-273-8844
http://www.nasubi-ltd.co.jp/aburinosuke/access/index.php
会　費：　6,000 円（社会人），　3,000 円（学生）

お問合せ先：

● 2013 年会実行委員会
実行委員長　坂田昌弘（静岡県立大学　環境科学研究所）
幹　事　長　三宅祐一（静岡県立大学　環境科学研究所）
E-mail: ses2013@u-shizuoka-ken.ac.jp（お問合せは電子メールでお願い致します）

●環境科学会 年会委員会／事務局（http://www.ses.or.jp/）
〒 135-0006 東京都江東区常盤 2-9-7 グリーンプラザ深川常盤 201
TEL: 03-3634-2942　　FAX: 03-3634-2943
E-mail: nenkai2013@ses.or.jp

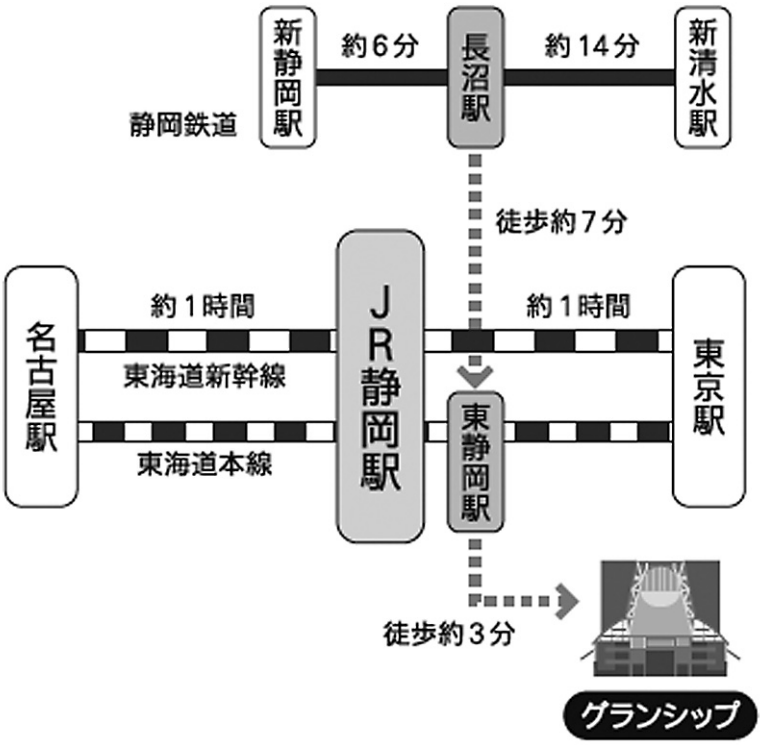
静岡県コンベンションアーツセンター
「GRANSHiP（グランシップ）」 へのアクセス案内

● JR をご利用の場合：　東海道新幹線（ひかり）で東京から約 1 時間，大阪から 2 時間。静岡駅下車。
東海道本線上り方面（沼津，三島，熱海方面）に乗換，JR 東静岡駅まで約 3 分。
JR 東静岡駅南口に隣接，メインエントランスまで徒歩約 3 分。

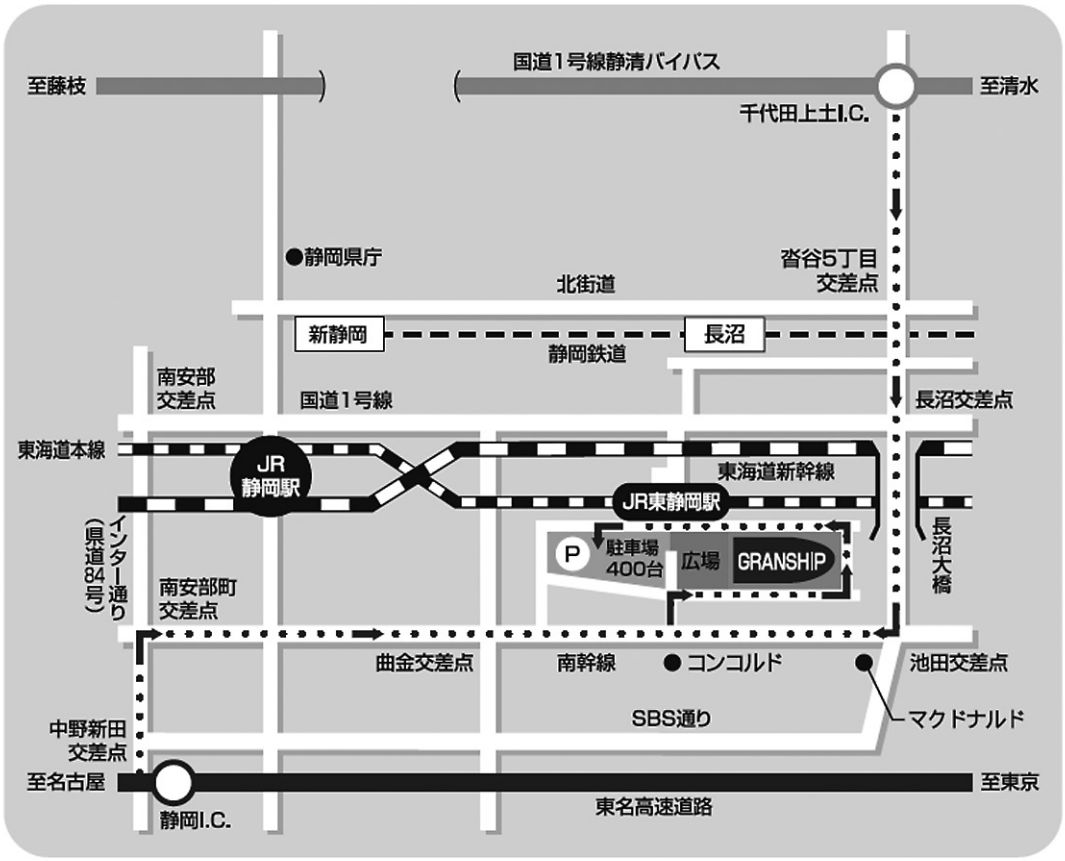
●富士山静岡空港をご利用の場合：　静鉄バス（静岡エアポートライナー）富士山静岡空港から静岡駅まで約 55 分。
東海道本線上り方面（沼津，三島，熱海方面）に乗換，JR 東静岡駅まで約 3 分。
JR 東静岡駅南口に隣接，メインエントランスまで徒歩約 3 分。

●静岡鉄道をご利用の場合：　静岡鉄道　新静岡駅から 6 分，新清水駅から 14 分。長沼駅下車。
JR 東静岡駅コンコース通過，南口出口まで徒歩約 7 分。メインエントランスまで徒歩約 3 分。

●お車でお越しの場合：　東名高速道路　静岡 I.C. から 6 km，車で約 20 分。
静清バイパス　千代田上土 I.C. から 4 km，車で約 10 分。

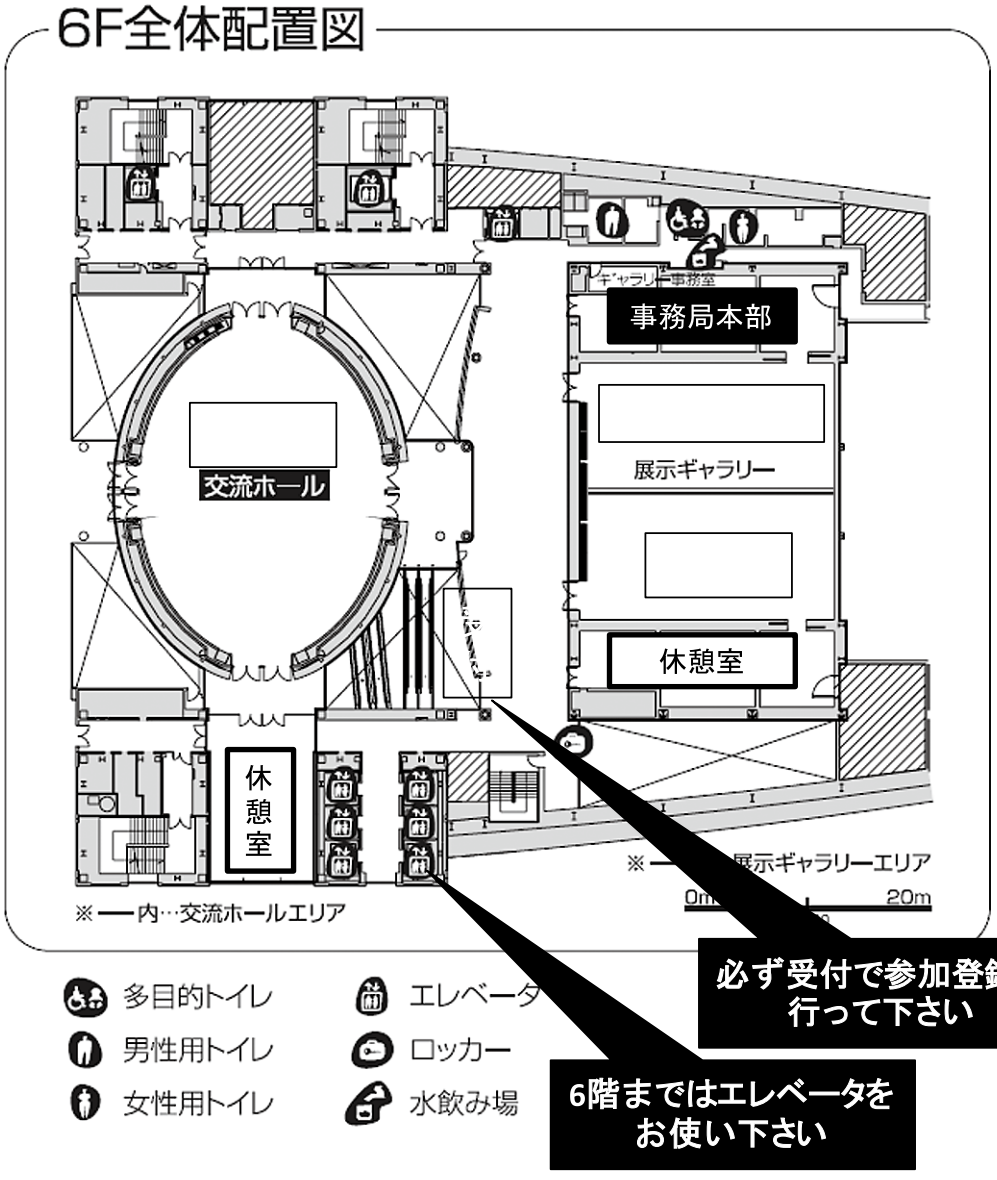


静岡県コンベンションアーツセンター
「GRANSHiP（グランシップ）」 周辺マップ



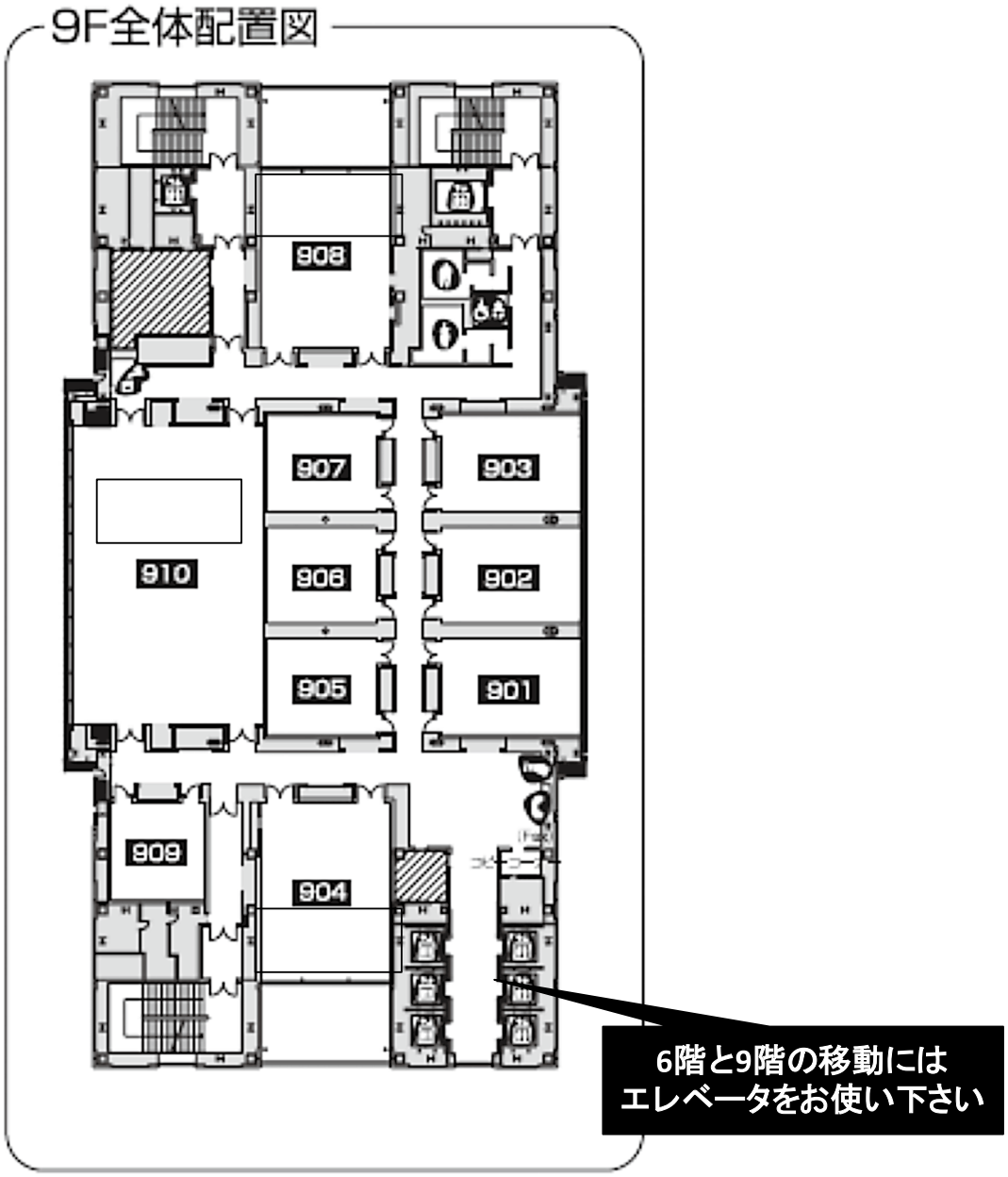
会　場　案　内　(1)

6 階　受付，A 会場，B 会場，ポスター会場



会　場　案　内　(2)

9 階　C 会場，D 会場，E 会場



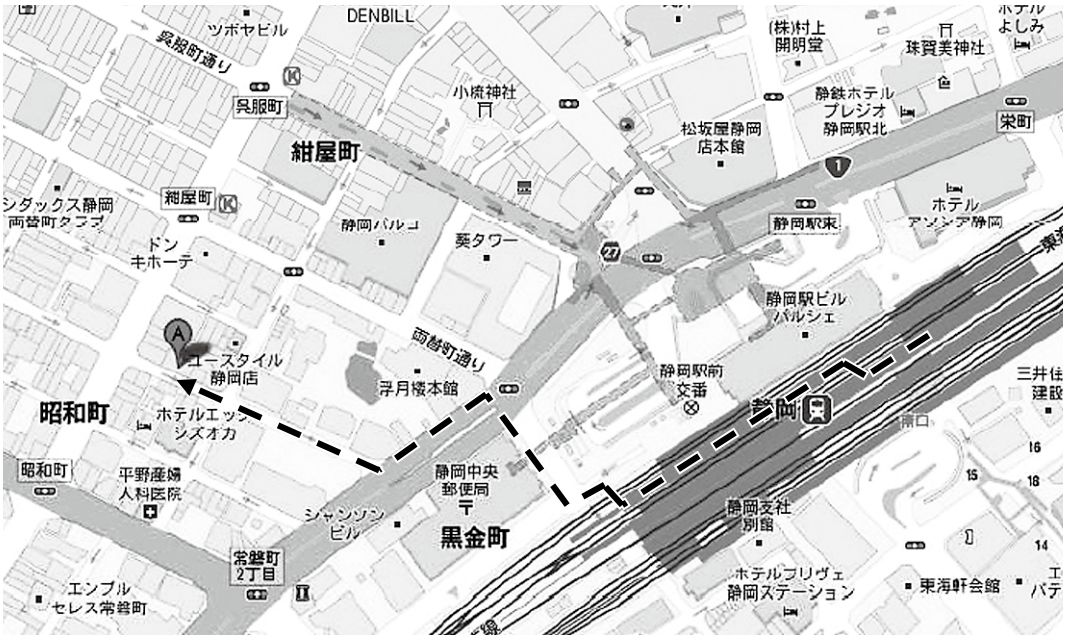
懇親会会場へのアクセス案内

会場：パーティールーム　KIRAKU PLACE 昭和町

●所在地：　静岡市葵区昭和町 1-8 炙の介 3F
●電　話：　054-273-8844
●アクセス：　JR 静岡駅北口 徒歩 8 分，静鉄 静岡駅より徒歩約 8 分

※初日の全てのプログラム終了後，年会会場から懇親会会場までの無料バスをご用意いたします。バスの出発時間は 9 月 3 日（火）当日，受付に掲示致しますので，ご参照の上，1 階メインエントランスにお集まりください。
無料バスを利用しないで会場に向かわれる方は，以下の地図をご参照ください。
（懇親会終了後は現地にて解散→最寄駅（JR 静岡駅北口　徒歩 8 分））

＜ JR 静岡駅から徒歩の場合＞
① JR 静岡駅ビル構内を西方向に進み北側へ出る。
②静岡中央郵便局 AOI の前を通って北方向に進み，横断歩道を渡る。
③左折して約 80 メートルほど進む。
④右折して約 150 メートル進むと店舗に到着。



発表者の方々へ

1．参加登録

口頭発表，シンポジウムならびにポスター発表，いずれへの参加も，**必ず受付で参加登録を行ってください。**

2．発表時間

口　頭　発　表：15 分（発表 10 分，質疑応答及び入れ替え 5 分）

シンポジウム：オーガナイザーにお問い合わせください。

ポスター発表：**9 月 3 日（火）11：00 までにポスターを所定の場所に掲示してください。**

ポスター発表時間帯は 9 月 3 日（火）12:15 ～ 14:15，9 月 4 日（水）12:00 ～ 13:30 です。このうち，発表･討論のコアタイムは 9 月 3 日（火）12:15 ～ 13:15 です。この時間帯には，発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。同時間帯に年会優秀発表賞の審査が行われます。それ以外の時間帯も自由に閲覧できます。

3．発表方法

口頭発表

・パソコン（Windows）と PC プロジェクタを用意します。
・OHP は用意いたしません。
・**持参されたパソコンの接続はできません。**必ずファイルを媒体に入れてご持参ください。
・**媒体は，USB メモリ**とします。
・ソフトは PowerPoint2007 または PowerPoint 2010 です。ファイルは 2007 形式での保存をお願いします。
・PowerPoint のファイル名には，必ず発表者の氏名を含めてください。
　例：　1A-0945 横浜太郎 .pptx
・各セッション開始の 10 分前までに，発表会場のパソコンにファイルをコピーしてください。発表時のパソコン操作は各自で行ってください。

シンポジウム

・パソコン（Windows）と PC プロジェクタを用意します。
・OHP は用意いたしません。
・媒体，ソフトについては，口頭発表と同様です。

ポスター発表

・掲示は受付後に 9：15 から行うことができます。
・掲示に必要な鋲は事務局で用意いたします。（**テープ類は使用できません**）
・ポスターは A0 サイズ（縦）以内でご用意ください。
・机や電源など掲示板以外の設備の使用をご希望される場合には，事前に実行委員会までメールでお問い合わせください。当該設備をご持参いただく場合やご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
・9 月 4 日（水）15：30 までに各自で撤去願います。多くの方に成果を見ていただけるよう，できるだけ長く掲示いただけるようお願い致します。
・規定時間を過ぎても撤去されていないポスターは，年会実行委員会が撤去・廃棄しますので，ご了承ください。

公益社団法人 環境科学会　2013 年会　プログラム

会場名		A会場	B会場	ポスター会場	C会場	D会場	E会場
部屋番号		6F交流ホール	6F展示ギャラリー	6F展示ギャラリー特設	9F-910会議室	9F-904会議室	9F-908会議室
9月3日（火）	**9:00**						
	9:15		9:00　受付開始				
	9:30					新エネルギー技術の分析	国際社会と環境政策
	9:45	シンポジウム1(P)	シンポジウム2		シンポジウム3（P）	1D-0945	1E-0945
	10:00	小規模分散型放射性	環境科学と大学の環境		2030年までの	1D-1000	1E-1000
	10:15	セシウム回収プロセスの	教育の体系化		日本における	1D-1015	1E-1015
	10:30	実用化を目指して	～歴史･現状･未来～		ライフスタイル変化	1D-1030	1E-1030
	10:45			（閲覧）		環境化学分析	環境動態の解析
	11:00					1D-1100	1E-1100
	11:15	迫田章義	内山弘美		青柳みどり	1D-1115	1E-1115
	11:30	中西友子	増原直樹		田崎智宏	1D-1130	1E-1130
	11:45					1D-1145	1E-1145
	12:00	9:45～12:15	9:45～12:15		9:45～12:15	1D-1200	1E-1200
	12:15			ポスター発表･討論			
	12:30			12:15-14:15			
	12:45			コアタイム			
	13:00		昼休み	12:15-13:15		昼休み	
	13:15						
	13:30	表彰式		優秀発表賞			
	13:45	13:30～14:00		審査･投票			
	14:00			14:15〆切		資源リサイクルと廃棄物	環境政策の効果
	14:15					1D-1415	1E-1415
	14:30	シンポジウム4(P)	シンポジウム5		シンポジウム6	1D-1430	1E-1430
	14:45	旭硝子財団	低炭素型ライフスタイルを実現する都市環境と地域経済		環境動態･暴露モデルの	1D-1445	1E-1445
	15:00	環境研究近藤次郎			化学物質リスク評価への	1D-1500	1E-1500
	15:15	グラント　発表会			貢献と今後の課題	1D-1515	1E-1515
	15:30			（閲覧）	学術賞記念シンポジウム	環境の測定と評価	環境改善計画
	15:45					1D-1545	1E-1545
	16:00	岡田光正	平野勇二郎		吉田喜久雄	1D-1600	1E-1600
	16:15	鈴木基之	柴原尚希		長谷恵美子	1D-1615	1E-1615
	16:30					1D-1630	1E-1630
	16:45	14:15～17:00	14:15～17:00		14:15～17:00	1D-1645	1E-1645
	17:00						
	17:15			懇親会へ移動			
	17:30			（年会会場からチャーターバスあり）			
	17:45						
	18:00			懇親会（若手育成事業表彰式を含む）			
				「パーティールーム KIRAKU PLACE昭和町　（JR静岡駅北口　徒歩8分）」			
				18:00～20:00			

会場名		A会場	B会場	ポスター会場	C会場	D会場	E会場
部屋番号		6F交流ホール	6F展示ギャラリー	6F展示ギャラリー特設	9F-910会議室	9F-904会議室	9F-908会議室
9月4日（水）	**9:00**						
	9:15		9:00　受付開始				
						リスク認知とリスク分析	環境意識と環境行動
	9:30	シンポジウム7	シンポジウム8(P)		シンポジウム9(P)	2D-0930	2E-0930
	9:45	健康長寿社会の構築に	農薬変化体の環境安全		気候変動リスク･脆弱性	2D-0945	2E-0945
	10:00	向けた環境科学と	管理を目指して		を克服する地域からの	2D-1000	2E-1000
	10:15	食品栄養科学の役割			適応社会の実現	2D-1015	2E-1015
	10:30			（閲覧）		ライフスタイルと環境評価	物質フローの解析
	10:45					2D-1045	2E-1045
	11:00	坂田昌弘	高梨啓和		田中　充	2D-1100	2E-1100
	11:15	下位香代子	亀屋隆志		馬場健司	2D-1115	2E-1115
	11:30					2D-1130	2E-1130
	11:45	9:30～12:00	9:30～12:00		9:30～12:00	2D-1145	2E-1145
	12:00						
	12:15						
	12:30	昼休み		ポスター発表･討論	昼休み		
	12:45			12:00-13:30			
	13:00						
	13:15				バイオマスのエネルギー利用	環境改善技術	エネルギー政策の分析
	13:30				2C-1330	2D-1330	2E-1330
	13:45	シンポジウム10（P）	シンポジウム11（P）	（閲覧）	2C-1345	2D-1345	2E-1345
	14:00	持続可能な発展指標の	未規制化学物質の		2C-1400	2D-1400	2E-1400
	14:15	新たな体系と	測定･評価･管理		2C-1415	2D-1415	2E-1415
	14:30	指標算定手法	に関する最新研究課題		2C-1430	2D-1430	2E-1430
	14:45			※ポスターは	バイオマスの高付加価値化	環境リスクと水環境	森林環境のストレス
	15:00	中口毅博	堀井勇一	15:30までに撤去	2C-1500	2D-1500	2E-1500
	15:15	栗島英明	三宅祐一	してください。	2C-1515	2D-1515	2E-1515
	15:30				2C-1530	2D-1530	2E-1530
	15:45	13:30～16:15	13:30～16:15		2C-1545	2D-1545	2E-1545
	16:00				2C-1600	2D-1600	2E-1600
	16:15						
	16:30	後片付け			後片付け		

2013 年会　座長一覧

会場名		A会場	B会場	ポスター会場	C会場	D会場	E会場
部屋番号		6F交流ホール	6F展示ギャラリー	6F展示ギャラリー特設	9F-910会議室	9F-904会議室	9F-908会議室
9月3日（火）	9:00 9:15 9:30	9:00　受付開始					
	9:45 10:00 10:15 10:30 10:45	シンポジウム1(P) 小規模分散型放射性セシウム回収プロセスの実用化を目指して	シンポジウム2 環境科学と大学の環境教育の体系化 ～歴史・現状・未来～	（閲覧）	シンポジウム3（P） 2030年までの日本における ライフスタイル変化	口頭発表1D-1 新エネルギー技術の分析 9:45～10:45 **後藤尚弘**	口頭発表1E-1 国際社会と環境政策 9:45～10:45 **加藤尊秋**
	11:00 11:15 11:30 11:45 12:00	**迫田章義** **中西友子** 9:45～12:15	**内山弘美** **増原直樹** 9:45～12:15		**青柳みどり** **田崎智宏** 9:45～12:15	口頭発表1D-2 環境化学分析 11:00～12:15 **寺崎正紀**	口頭発表1E-2 環境動態の解析 11:00～12:15 **藤田慎一**
	12:15 12:30 12:45 13:00 13:15	昼休み		ポスター発表・討論 12:15-14:15 コアタイム 12:15-13:15	昼休み		
	13:30 13:45 14:00	表彰式 13:30～14:00		優秀発表賞 審査・投票 14:15〆切			
	14:15 14:30 14:45 15:00 15:15	シンポジウム4(P) 旭硝子財団 環境研究近藤次郎グラント　発表会	シンポジウム5 低炭素型ライフスタイルを実現する都市環境と地域経済	（閲覧）	シンポジウム6 環境動態・暴露モデルの化学物質リスク評価への貢献と今後の課題	口頭発表1D-3 資源リサイクルと廃棄物 14:15～15:30 **谷川寛樹**	口頭発表1E-3 環境政策の効果 14:15～15:30 **小林憲弘**
	15:30				学術賞記念シンポジウム		
	15:45 16:00 16:15 16:30 16:45	**岡田光正** **鈴木基之** 14:15～17:00	**平野勇二郎** **柴原尚希** 14:15～17:00		**吉田喜久雄** **長谷恵美子** 14:15～17:00	口頭発表1D-4 環境の測定と評価 15:45～17:00 **丸本幸治**	口頭発表1E-4 環境改善計画 15:45～17:00 **錦澤滋雄**
	17:00 17:15 17:30 17:45	懇親会へ移動 （年会会場からチャーターバスあり）					
	18:00	懇親会（若手育成事業表彰式を含む） 「パーティールーム KIRAKU PLACE昭和町 （JR静岡駅北口　徒歩8分）」 18:00～20:00					

会場名		A会場	B会場	ポスター会場	C会場	D会場	E会場
部屋番号		6F交流ホール	6F展示ギャラリー	6F展示ギャラリー特設	9F-910会議室	9F-904会議室	9F-908会議室
9月4日（水）	9:00 9:15	9:00　受付開始					
	9:30 9:45 10:00 10:15 10:30	シンポジウム7 健康長寿社会の構築に向けた環境科学と食品栄養科学の役割	シンポジウム8(P) 農薬変化体の環境安全管理を目指して	（閲覧）	シンポジウム9(P) 気候変動リスク・脆弱性を克服する地域からの適応社会の実現	口頭発表2D-1 リスク認知とリスク分析 9:30～10:30 **林　彬勒**	口頭発表2E-1 環境意識と環境行動 9:30～10:30 **栗栖　聖**
	10:45 11:00 11:15 11:30 11:45	**坂田昌弘** **下位香代子** 9:30～12:00	**高梨啓和** **亀屋隆志** 9:30～12:00		**田中　充** **馬場健司** 9:30～12:00	口頭発表2D-2 ライフスタイルと環境評価 10:45～12:00 **森　保文**	口頭発表2E-2 物質フローの解析 10:45～12:00 **橋　隆一**
	12:00 12:15 12:30 12:45 13:00 13:15	昼休み		ポスター発表・討論 12:00-13:30	昼休み		
	13:30 13:45 14:00 14:15 14:30	シンポジウム10（P） 持続可能な発展指標の新たな体系と指標算定手法	シンポジウム11（P） 未規制化学物質の測定・評価・管理に関する最新研究課題	（閲覧） ※ポスターは15:30までに撤去してください。	口頭発表2C-3 バイオマスのエネルギー利用 13:30～14:45 **熊田洋一**	口頭発表2D-3 環境改善技術 13:30～14:45 **村上道夫**	口頭発表2E-3 エネルギー政策の分析 13:30～14:45 **中谷　隼**
	14:45 15:00 15:15 15:30 15:45 16:00	**中口毅博** **栗島英明** 13:30～16:15	**堀井勇一** **三宅祐一** 13:30～16:15		口頭発表2C-4 バイオマスの高付加価値化 15:00～16:15 **坂口　歳**	口頭発表2D-4 環境リスクと水環境 15:00～16:15 **小林　剛**	口頭発表2E-4 森林環境のストレス 15:00～16:15 **谷　晃**
	16:15 16:30	後片付け			後片付け		

口 頭 発 表

【第１日目（９月３日）午　前】

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -1D-1　新エネルギー技術の分析（9：45 ～ 10：45）

座　長：　後藤尚弘（豊橋技術科学大学）

1D-0945　予算制約下における省エネルギー商品購入のパレート効率性分析
○末原諒矢，阿部直也（東京工業大学）

1D-1000　次世代自動車の普及に向けた新しい社会像に関する研究
○中山典子，杉山範子，竹内恒夫，松野正太郎（名古屋大学），伊神　崇（株式会社電通）

1D-1015　離島地域の新エネルギー導入による地域社会への影響と課題
○松村悠子，三好恵真子（大阪大学）

1D-1030　スマートハウスの面的利用に関するシミュレーション分析
○島崎洋一（山梨大学）

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -1D-2　環境化学分析（11：00 ～ 12：15）

座　長：　寺崎正紀（静岡県立大学）

1D-1100　LC/MS/MS を用いた一斉分析における分析試料溶媒によるピーク形状の変化
○三保紗織，鈴木拓万，近藤貴志，亀屋隆志，小林　剛（横浜国立大学）

1D-1115　サーマルデソープションを用いたハロゲン化多環芳香族炭化水素の高感度・選択的分析の信頼性の検討
○朝日宏行，雨谷敬史，三宅祐一（静岡県立大学）

1D-1130　廃棄物焼却施設から排出されたハロゲン化多環芳香族炭化水素類の大気中濃度推定と実測濃度との比較
○王　　斉，三宅祐一，雨谷敬史（静岡県立大学），堀井勇一，野尻喜好，大塚宜寿（埼玉県環境科学国際センター）

1D-1145　大阪湾における PFCs の挙動解析
○井上実沙規（大阪大学）

1D-1200　副生 PCB 含有顔料使用製品からの 3,3'-Dichlorobiphenyl 暴露評価
○片岡敏行，栗原　勇，片桐律子，和田丈晴（化学物質評価研究機構），益永茂樹（横浜国立大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -1E-1　国際社会と環境政策（9：45 ～ 10：45）

座　長：　加藤尊秋（北九州市立大学）

1E-0945　フューチャー・アース構想の理念と成立過程
○森　壮一（文部科学省），蟹江憲史（東京工業大学），角谷　寛（滋賀医科大学），早川有香（東京工業大学）

1E-1000　気候変動法における立憲主義と国内法化
○木村ひとみ（大妻女子大学）

1E-1015　二国間オフセット・クレジット制度の経済効果と削減効果
○杉野　誠，有村俊秀（早稲田大学），岩田和之（高崎経済大学）

1E-1030　生物資源管理のための国際制度の有効性：南極海洋生物資源保存委員会（CCAMLR）の事例分析
○大久保彩子（東海大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -1E-2 環境動態の解析（11：00 ～ 12：15）

座　長：　藤田慎一（電力中央研究所）

1E-1100　駿河湾の食物網における微量元素の生物濃縮特性
○坂田昌弘，三輪　愛，光延　聖（静岡県立大学）

1E-1115　水俣湾における海水中揮発性水銀の放出フラックスの推定
○丸本幸治，今井祥子，松山明人（国立水俣病総合研究センター）

1E-1130　リチウム同位体をトレーサーとする大気エアロゾルの発生源推定法の検討－黄砂トレーサーとしての有効性－
○坂田昌弘，今井　佑，光延　聖（静岡県立大学）

1E-1145　大気への六価クロム排出が推定される発生源関連試料中の六価クロムと金属濃度との関係の解析
○姫　　旭，山下裕太，石井沙苗，小林　剛，亀屋隆志（横浜国立大学）

1E-1200　一般環境大気中の六価クロム濃度変化への影響因子の網羅的検討
○山下裕太，姫　　旭，石井沙苗，荻野洋佑，小林　剛，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

【第 1 日目 (9 月 3 日) 午　後】

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -1D-3 資源リサイクルと廃棄物（14：15 ～ 15：30）

座　長：　谷川寛樹（名古屋大学）

1D-1415　**奨励賞受賞記念講演**：資源・廃棄物管理の政策とライフスタイルに関する研究
○田崎智宏（国立環境研究所）

1D-1430　中国における使用済自動車リサイクルに関する研究
○栗　　洋，藤川清史（名古屋大学）

1D-1445　食品系廃棄物を対象としたリサイクル DB の構築と事業成功要件に関する考察
○竹原裕人，大村健太，一久保晶，中嶋崇史，清水　康，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

1D-1500　ごみ処理区域の広域化による環境・エネルギー・焼却施設への影響：静岡県中部地域を事例として
○戸敷浩介（静岡県立大学）

1D-1515　東アジアからの医療や衛生用品廃棄物の漂着実態
○岡野多門（鳥取大学）

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -1D-4 環境の測定と評価（15：45 ～ 17：00）

座　長：　丸本幸治（国立水俣病総合研究センター）

1D-1545　**論文賞受賞記念講演**：東京都狛江市における降水組成の経年変化
○藤田慎一，高橋　章（電力中央研究所），三浦和彦（東京理科大学）

1D-1600　アジアの 7 大都市における都市の地下温度上昇
○一ノ瀬俊明，林　　曄（国立環境研究所，名古屋大学）

1D-1615　Outdoor experiment on differences in surface temperature with changes in clothing color
○Lin Ye, Ichinose Toshiaki (Nagoya University, NIES)

1D-1630　Canadian prairie spring wheat yield projection by earlier stage's climate conditions
○Kanichiro Matsumura (Kwansei Gakuin Univesity), Johnson Michael, William W. Hsieh (University of British Columbia), Alex Cannon (University of Victoria)

1D-1645　食料システムの効率化と栄養不良撲滅を考慮した世界の食事エネルギー必要量の長期推計
○棟居洋介（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -1E-3 環境政策の効果（14：15 ～ 15：30）

座　長：　小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所）

1E-1415　PM2.5 に関する費用対効果分析モデルと削減量の最適化
○功刀祐之（上智大学），有村俊秀（早稲田大学），岩田和之（高崎経済大学），小松英司（明治大学），平山世志衣（（株）環境情報コミュニケーションズ）

1E-1430　VOC に対する自主管理計画と法規制に関するリスクの実証研究
○小俣幸子（東京工業大学），小谷健輔（横浜国立大学）

1E-1445　効果的な森林生態系サービスへの支払い政策の検討
○太田貴大，上原拓郎（立命館大学）

1E-1500　建設廃棄物削減要因に関するデータ分析
○後藤正樹（山梨大学）

1E-1515　家電製品 DB の構築とその分析による DfE の定量評価
○桑原健嘉，若林英佑，島村恭平，中嶋崇史，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -1E-4 環境改善計画（15：45 ～ 17：00）

座　長：　錦澤滋雄（東京工業大学）

1E-1545　農業用水における小水力発電機の最適導入に関する研究
○立花潤三，鈴木祥太（富山県立大学）

1E-1600　生物障害の発生に伴う浄水処理プロセスのエネルギー消費量の変化の解析
○宮内悠馬，高梨啓和，中島常憲，大木　章（鹿児島大学），下ヶ橋雅樹，岸田直裕，秋葉道宏（国立保健医療科学院）

1E-1615　大学における省エネ対策のデータベース化と学生の省エネ意識向上策の提案
○今田宗介，絵内祐樹，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

1E-1630　中小企業における環境取組に関する実証研究　－愛知県を事例として－
○高　安栄（名古屋大学）

1E-1645　企業の活動の環境パフォーマンス評価および行動提案の検討
○佐伯凌汰，中嶋崇史，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

【第 2 日目（9 月 4 日）午　前】

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -2D-1 リスク認知とリスク分析（9：30 ～ 10：30）

座　長：　林　彬勒（産業技術総合研究所）

2D-0930　除染後のふるさとへの帰還を決定する因子～オンラインアンケートによる定量化の試み～
○小野恭子（産業技術総合研究所），村上道夫，中谷　隼（東京大学）

2D-0945　放射性物質のリスク認知と帰還意志の関係
○村上道夫（東京大学），小野恭子（産業技術総合研究所），中谷　隼（東京大学）

2D-1000　確率論的手法による日本人の無機ヒ素摂取量分布とリスクの推定
○小栗朋子（東京大学），小林真弓（北里大学），吉永　淳（東京大学）

2D-1015　難燃剤ヘキサブロモシクロドデカン（HBCD）の物質代替におけるリスク比較
○益永茂樹（横浜国立大学），真名垣聡（武蔵野大学），小谷健輔，小林　剛，三宅淳巳，本藤祐樹（横浜国立大学）

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -2D-2 ライフスタイルと環境評価（10：45 ～ 12：00）

座　長：　森　保文（国立環境研究所）

2D-1045　**論文賞受賞記念講演**：家庭における廃棄物発生抑制行動のライフサイクル評価
○新保雄太（東京大学（現・環境省）），中谷　隼，栗栖　聖，花木啓祐（東京大学）

2D-1100　家庭における複数の環境配慮行動を対象とした個別心理モデルの構築と評価
○青木えり，栗栖　聖，花木啓祐（東京大学）

2D-1115　夏期の節電啓発プロジェクトによる行動とその実績に関する調査分析－ 2012 年，滋賀県の事例より－
○岩川貴志（循環共生社会システム研究所），伊藤美喜，来田博美（滋賀県地球温暖化防止活動推進センター），内藤正明（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

2D-1130　住民の視点に立脚した次世代スマートコミュニティに関する研究
○古川健吾，本多純子，一久保晶，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

2D-1145　中国における統合化指標 ELP の開発と活用に関する研究
○裴　　涛，周　　洋，胡　　浩，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -2E-1 環境意識と環境行動（9：30 ～ 10：30）

座　長：　栗栖　聖（東京大学）

2E-0930　日本の環境パートナーシップ組織の特徴とその類型化に関する研究－市区レベルのアンケート調査結果による分析－
○中口毅博（芝浦工業大学），佐藤　徹（高崎経済大学）

2E-0945　環境教育と周辺自然環境が小学生の身近な生き物に対する意識・行動に与える影響評価―さいたま市を事例としてー
○渋江桂子，中口毅博（芝浦工業大学）

2E-1000　愛知県社会人向け環境リーダー育成事業「あいち環境塾」の評価と課題
九里徳泰，田開寛太郎（富山県立大学），○後藤尚弘（豊橋技術科学大学），小林敬之，加藤丈佳（名古屋大学）

2E-1015　ボランティア活動参加とコスト・ベネフィットおよび経済的・時間的余裕の関係
○森　保文（国立環境研究所），前田恭伸（静岡大学），淺野敏久（広島大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -2E-2 物質フローの解析（10：45 ～ 12：00）

座　長：　橘　隆一（東京農業大学）

2E-1045　廃棄物処理量からみた循環型社会の形成要因に関する分析
○小谷部透（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所），棟居洋介（東京工業大学）

2E-1100　発表中止

2E-1115　ベトナム国ダナン市の一般家庭における食品残渣の排出及び収集
○チャン　アン　クアン，加藤尊秋，姫嶋恵里（北九州市立大学），ホアン　ハイ，チャン　バァン　クワン（ダナン工科大学）

2E-1130　Economy - Wide Material flow Analysis and Macro Indicators in Developing Uzbekistan
○Raupova Ozoda, Hirotsugu Kamahara, Naohiro Goto (Toyohashi University of Technology)

2E-1145　Material Flow Analysis Study of Primary Aluminium in Indonesia
○Suciati Asri, Naohiro Goto (Toyohashi University of Technology)

【第２日目（９月４日）午　後】

C 会場（9F-910 会議室）　口頭発表 -2C-3　バイオマスのエネルギー利用（13：30 ～ 14：45）

座　長：　熱田洋一（豊橋技術科学大学）

2C-1330　バイオマス資源の熱挙動における重量解析
○中道隆広，村上信明（長崎総合科学大学），石橋康弘（熊本県立大学），大場和彦（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿高等専門学校），下高敏彰，泉　哲也（長崎総合科学大学）

2C-1345　熱処理と微生物処理における有機性廃棄物の可溶化効果
○山崎祐史, 下高敏彰, 泉　哲也, 大場和彦（長崎総合科学大学）, 甲斐穂高（鈴鹿高等専門学校），石橋康弘（熊本県立大学），中道隆広（長崎総合科学大学）

2C-1400　世界の家畜飼料とバイオ燃料副産物に関する考察
○林　礼美，秋元圭吾，佐野史典（地球環境産業技術研究機構）

2C-1415　排熱のみを熱源とした生物系未利用資源の処理シナリオ
○坂口　巌，片山新太（名古屋大学）

2C-1430　Assessment of the biomass energy potential and electric power generation using biomass energy in Myanmar
○ Tun ThetSwe, Naohiro Goto (Toyohashi University of Technology)

C 会場（9F-910 会議室）　口頭発表 -2C-4　バイオマスの高付加価値化（15：00 ～ 16：15）

座　長：　坂口　巌（名古屋大学）

2C-1500　豚尿液肥による水稲栽培の経済性評価
○金澤伸浩，嶋崎善章，小川敦史，金田吉弘（秋田県立大学）

2C-1515　畜産廃棄物を用いた微細藻類大量培養システムの構築と運用
○五味直哉，岡野敦生，御園生拓（山梨大学）

2C-1530　リン成分の回収をめざした光触媒反応による米ぬか成分の分解の検討
○桐谷久恵，砂田香矢乃（東京大学），橋本和仁（東京大学）

2C-1545　高圧熱水反応による PVA の環化反応と高付加価値物質の探索
○深澤佑介，藤江幸一，亀屋隆志，大和田健登，浦部雅総（横浜国立大学）

2C-1600　**奨励賞受賞記念講演**：水熱反応を用いたバイオマス利用技術の開発とその評価
○熱田洋一，大門裕之（豊橋技術科学大学）

D 会場（9F-904 会議室）　口頭発表 -2D-3　環境改善技術（13：30 ～ 14：45）

座　長：　村上道夫（東京大学）

2D-1330　**優秀研究企画賞受賞記念講演**：汚染未然防止のための多様な化学物質の土壌汚染可能性のスクリーニング手法の検討
○小林　剛，上田裕之，山田尚弘，グエンチィー　ランビン，亀屋隆志（横浜国立大学）

2D-1345　1,4- ジオキサンの特異な土壌中挙動を考慮した不飽和土壌中挙動予測モデル
○森　一星，渋沢麻衣，上田裕之，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

2D-1400　原生生物を用いたセシウム汚染土壌の新規処理法
○吉村知里，Islam MD Shafiqul，洲崎敏伸（神戸大学）

2D-1415　廃石膏ボードを用いたホウ素吸着素材研究
○圓福康平, 下高敏彰, 泉　哲也, 大場和彦（長崎総合科学大学）, 甲斐穂高（鈴鹿高等専門学校），石橋康弘（熊本県立大学），中道隆広（長崎総合科学大学）

2D-1430　臭素酸電解水製造装置の開発と評価に関する研究
○甲斐穂高，森美由貴（鈴鹿工業高等専門学校），中道隆広（長崎総合科学大学），石橋康弘（熊本県立大学）

D 会場（9F-904 会議室） 口頭発表 -2D-4 環境リスクと水環境（15：00 ～ 16：15）

座　長：　小林　剛（横浜国立大学）

2D-1500　窒素の多面的な環境リスク評価手法開発
○林　彬勒（産業技術総合研究所）

2D-1515　活性窒素降下量の増加による生物多様性損失影響についての検討
○公文陽子（東京農工大学），林　彬勒，井上和也（産業技術総合研究所），細見正明（東京農工大学）

2D-1530　洞爺湖における水環境と温室効果気体の動態
○齊藤志保美（酪農学園大学）

2D-1545　フィリピン・ラグナ湖集水域における水質汚染物質の空間分布
○矢尾田清幸，宮川千絵，嘉田良平（総合地球環境学研究所）

2D-1600　化管法対象物質の光，加水分解性とフェントン，オゾンおよび塩素との反応性
○佐藤裕文，石川浩輔，鈴木　翔，亀屋隆志，小林　剛（横浜国立大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -2E-3 エネルギー政策の分析（13：30 ～ 14：45）

座　長：　中谷　隼（東京大学）

2E-1330　燃料転換の速度のモデル化とエネルギーモデルへの適用
○白木裕斗（東京大学），田崎智宏，松橋啓介（東京大学，国立環境研究所），芦名秀一（国立環境研究所），森口祐一（東京大学）

2E-1345　太陽光発電の導入が地域経済と二酸化炭素排出量に及ぼす影響に関する研究
○佐藤　瞬（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所），棟居洋介（東京工業大学）

2E-1400　太陽電池パネル廃棄量の将来推計と最適輸送システムに関する感度分析
○佐藤太平，松本　亨（北九州市立大学），藤山淳史（北海道大学）

2E-1415　建設業から林業への人材移転による再生可能エネルギー利用促進の可能性の検討
○田畑智博（神戸大学），辻　佑機（日本電気株式会社），坂口卓司（神戸大学）

2E-1430　名古屋都市圏を対象とした未利用エネルギーポテンシャルの検討
○杉本賢二，森田紘圭，谷川寛樹（名古屋大学）

E 会場（9F-908 会議室） 口頭発表 -2E-4 森林環境のストレス（15：00 ～ 16：15）

座　長：　谷　　晃（静岡県立大学）

2E-1500　大気汚染物質の硫酸による樹木の立ち枯れ・木炭による立ち枯れ防止
○大森禎子，吉池雄蔵（元東邦大学），岡村　忍（東邦大学），岩崎真理（足利工大附属高校）

2E-1515　京都市内の歴史的森林の酸性土壌の回復
○伊藤和男，小林　孝（大阪府立大学高専）

2E-1530　樹木の環境応答特性－重力ストレスとリグニン構造相関－
○鈴木里奈，舩岡正光（三重大学）

2E-1545　樹木に包含される環境因子－樹体内リグニン構造分布パターン－
○浅井慎史，野中　寛，舩岡正光（三重大学）

2E-1600　**奨励賞受賞記念講演**：森林環境における保全・修復技術の開発と評価
○橘　隆一（東京農業大学）

ポスター発表（優秀発表賞応募発表も含む）

掲示可能期間：９月３日（火）９：00 ～ ９月４日（水）15：30（15：30 までに各自撤去願いますす）
発表・討論時間：９月３日（火）12：15 ～ 14：15（うち，**12：15～13：15** は「コアタイム」とします。）
９月４日（水）12：00 ～ 13：30

※掲示期間中，ポスターは自由に閲覧することができますが，初日および２日目のお昼の時間帯を発表・討論時間として設定しています。初日の「コアタイム」には発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。

P-01　LC/MS/MS を用いた一斉分析における分析試料溶媒によるピーク形状の変化
○三保紗織，鈴木拓万，近藤貴志，亀屋隆志，小林　剛（横浜国立大学）

P-02　サーマルデソープションを用いたハロゲン化多環芳香族炭化水素の高感度・選択的分析の信頼性の検討
○朝日宏行，雨谷敬史，三宅祐一（静岡県立大学）

P-03　廃棄物焼却施設から排出されたハロゲン化多環芳香族炭化水素類の大気中濃度推定と実測濃度との比較
○王　　斉，三宅祐一，雨谷敬史（静岡県立大学），堀井勇一，野尻喜好，大塚宜寿（埼玉県環境科学国際センター）

P-04　活性窒素降下量の増加による生物多様性損失影響についての検討
○公文陽子（東京農工大学），林　彬勒，井上和也（産業技術総合研究所），細見正明（東京農工大学）

P-05　化管法対象物質の光，加水分解性とフェントン，オゾンおよび塩素との反応性
○佐藤裕文，石川浩輔，鈴木　翔，亀屋隆志，小林　剛（横浜国立大学）

P-06　河川水の GC-MS AIQS-DB 分析におけるカラム性能の劣化とその影響を受ける物質
○小沼一元，松本祐典，近藤貴志，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

P-07　臭素化パラベンの標準品合成の検討
○木村健一，寺崎正紀，牧野正和（静岡県立大学）

P-08　ベンゾ［a］ピレンの生体応答は明期と暗期で異なるか？
○大塚好美，松井朝子，保田倫子（静岡県立大学），榊原啓之（宮崎大学），下位香代子（静岡県立大学）

P-09　ラット肝 S9 による防腐剤パラベンの塩素化副生成物の代謝反応について
○和田　武，寺崎正紀，牧野正和（静岡県立大学）

P-10　生態学的特性が異なる土壌動物（ミミズとトビムシ）における重金属曝露量の比較
○柳澤幸成，Hou Libo，中森泰三，金子信博（横浜国立大学），藤井芳一，藤井芳一（人間環境大学），神谷貴文（静岡県環境衛生科学研究所），小野恭子，保高徹生（産業技術総合研究所）

P-11　事業所排水の PRTR データと WET 試験の関連性についての考察
楠井隆史，○福冨真実子，金　　俊，板津康之（富山県立大学）

P-12　Outdoor experiment on differences in surface temperature with changes in clothing color
○ Lin Ye, Ichinose Toshiaki (Nagoya University, NIES)

P-13　森林の公益的機能の保全を目的とした非皆伐による針広混交林化政策についての長期森林経営分析
○金森啓介（福井県立大学）

P-14　森林から放出された BVOC が BVOC 由来二次有機エアロゾル生成に関与する制御要因の解明
○望月智貴（静岡県立大学），宮崎雄三，小野かおり，河村公隆（北海道大学），高橋善幸（国立環境研究所），和田龍一（帝京科学大学），塩澤竜志，谷　　晃（静岡県立大学）

P-15　大気への六価クロム排出が推定される発生源関連試料中の六価クロムと金属濃度との関係の解析
○姫　　旭，山下裕太，石井沙苗，小林　剛，亀屋隆志（横浜国立大学）

P-16　一般環境大気中の六価クロム濃度変化への影響因子の網羅的検討
○山下裕太，姫　　旭，石井沙苗，荻野洋佑，小林　剛，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

P-17　1,4- ジオキサンの特異な土壌中挙動を考慮した不飽和土壌中挙動予測モデル
○森　一星，渋沢麻衣，上田裕之，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

P-18　樹木の環境応答特性－重力ストレスとリグニン構造相関－
○鈴木里奈，舩岡正光（三重大学）

P-19　樹木に包含される環境因子－樹体内リグニン構造分布パターン－
○浅井慎史，野中　寛，舩岡正光（三重大学）

P-20　標高変化に基づく人為的な土砂移動量の推計に関する研究－和歌山県和歌山市加太地区のケーススタディ－
○吉田圭介，Chinnachodteeranun Rassarin，奥岡桂次郎，杉本賢二，谷川寛樹（名古屋大学）

P-21　衛星夜間光と合成開口レーダを用いた建築物面積の推計方法の検討
○黒田将平，杉本賢二，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-22　マルチレイヤー型の環境情報可視化システムの構築
○高木渓太，奥岡桂次郎，杉本賢二，谷川寛樹（名古屋大学）

P-23　ササラダニによる山梨県甲府市愛宕山の環境評価
谷村那子，雨宮史奈，高桑ないほ，○林日菜子，山本紘治，野澤尚子（山梨英和高等学校）

P-24　発表中止

P-25　生物障害の発生に伴う浄水処理プロセスのエネルギー消費量の変化の解析
○宮内悠馬，高梨啓和，中島常憲，大木　章（鹿児島大学），下ヶ橋雅樹，岸田直裕，秋葉道宏（国立保健医療科学院）

P-26　高圧熱水反応による PVA の環化反応と高付加価値物質の探索
○深澤佑介，藤江幸一，亀屋隆志，大和田健登，浦部雅総（横浜国立大学）

P-27　スマートコミュニティにおける地熱発電最適利用
○菊地祐斗（東京農工大学）

P-28　発表中止

P-29　廃石膏ボードを用いたホウ素吸着素材研究
○圓福康平，下高敏彰，泉　哲也，大場和彦（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿高等専門学校），石橋康弘（熊本県立大学），中道隆広（長崎総合科学大学）

P-30　熱処理と微生物処理における有機性廃棄物の可溶化効果
○山崎祐史，下高敏彰，泉　哲也，大場和彦（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿高等専門学校），石橋康弘（熊本県立大学），中道隆広（長崎総合科学大学）

P-31　太陽熱を利用した廃食油からのバイオディーゼル燃料生産
望月柚香，青柳香菜子，飯野百音，川上詩織，小林才織，藤本結香，山田宮子，○五味愛美，権守華子，田中伶奈，野沢真智子，野澤尚子，御園生真美（山梨英和高等学校），御園生拓（山梨大学）

P-32　燃料転換の速度のモデル化とエネルギーモデルへの適用
○白木裕斗（東京大学），田崎智宏，松橋啓介（東京大学，国立環境研究所），芦名秀一（国立環境研究所），森口祐一（東京大学）

P-33　名古屋都市圏を対象とした未利用エネルギーポテンシャルの検討
○杉本賢二，森田紘圭，谷川寛樹（名古屋大学）

P-34　日中韓 FTA 締結が二酸化炭素排出量に及ぼす影響試算
○赤堀弘和（北海道大学），増田清敬（滋賀県立大学），吉田裕介，山本康貴（北海道大学）

P-35　Economy - Wide Material flow Analysis and Macro Indicators in Developing Uzbekistan
○ Raupova Ozoda, Hirotsugu Kamahara, Naohiro Goto (Toyohashi University of Technology)

P-36　PM2.5 に関する費用対効果分析モデルと削減量の最適化
○功刀祐之（上智大学), 有村俊秀（早稲田大学), 岩田和之（高崎経済大学), 小松英司（明治大学），平山世志衣（株式会社環境情報コミュニケーションズ）

P-37　家電製品 DB の構築とその分析による DfE の定量評価
○桑原健嘉，若林英佑，島村恭平，中嶋崇史，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

P-38　離島地域の新エネルギー導入による地域社会への影響と課題
○松村悠子，三好恵真子（大阪大学）

P-39　太陽電池パネル廃棄量の将来推計と最適輸送システムに関する感度分析
○佐藤太平，松本　亨（北九州市立大学），藤山淳史（北海道大学）

P-40　脱原発による長期需要予測
○望月　剛（東京農工大学）

P-41　食品系廃棄物を対象としたリサイクル DB の構築と事業成功要件に関する考察
○竹原裕人，大村健太，一久保晶，中嶋崇史，清水　康，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

P-42　社会基盤の拡充による労働生産性への影響評価
○奥山聡俊志，奥岡桂次郎，杉本賢二，谷川寛樹（名古屋大学）

P-43　GIS を用いた建設副産物の TMR 指標による品質を考慮したリサイクル性評価
～和歌山市中心部を対象としたケーススタディ～
○光崎貴洋，奥岡桂次郎（名古屋大学），山末英嗣（京都大学），谷川寛樹（名古屋大学）

P-44　家庭における複数の環境配慮行動を対象とした個別心理モデルの構築と評価
○青木えり，栗栖　聖，花木啓祐（東京大学）

P-45　Sustainability Science Umbrella: A General framework of Integrated SES
○Wang Qiyan, Masakazu Yamashita（同志社大学）

P-46　Students' attitudes toward Life and Environmental Science in comparison to other science fields in upper secondary schools of Japan, Malaysia and Ukraine
○Fomichova Kseniya，Gomi Naoya（山梨大学），Misonou Taku

P-47　ゴミの有料化が環境配慮行動に及ぼす効果の検討
○高浦佑介（東京大学），木村綱希（電通マーケティングインサイト），池田謙一（同志社大学）

P-48　ベトナム国ダナン市の一般家庭における食品残渣の排出及び収集
○チャン アン クアン，加藤尊秋，姫嶋恵里（北九州市立大学），ホアン ハイ，チャン バァン　クワン（ダナン工科大学）

P-49　住民の視点に立脚した次世代スマートコミュニティに関する研究
○古川健吾，本多純子，一久保晶，小野田弘士，永田勝也（早稲田大学）

P-50　低物質社会に向けた資源蓄積量の生産性に関する研究
○田中健介，奥岡桂次郎，杉本賢二，谷川寛樹（名古屋大学）

P-51　地球温暖化問題への意識に基づく関連主体の類型評価
○寺西　制，栗栖　聖，花木啓祐（東京大学）

P-52　Effect of Different Fertilizers on Growth and Cd Accumulation of Three plants in Contaminated Soil
○王　効挙（埼玉県環境科学国際センター），李　　濤（中国山西農業大学），程　紅艶（中国山西農業大学）

P-53　臭素系（モノ臭素化ポリ塩素化）ダイオキシン類の VS に基づく AhR 作用能評価
長嶋　慧, 定塚和彦（静岡県立大学), 山田建太（常葉大学), 寺崎正紀, ○牧野正和（静岡県立大学）

P-54　LC/MS を用いた農薬変化体の探索
○高梨啓和，有島由紀子，濱美紗希，中島常憲，大木　章（鹿児島大学），近藤貴志，亀屋隆志（横浜国立大学），松下　拓（北海道大学）

P-55　田子の浦水域で検出される製紙関連物質とその AhR 活性
○寺崎正紀，定塚和彦，牧野正和（静岡県立大学），白石不二雄，中島大介（国立環境研究所）

P-56　海洋環境におけるビスフェノールA汚染実態の調査
道祖土勝彦（産業技術総合研究所），○小泉公志郎，佐藤秀人（日本大学短期大学部），楠井隆史，奥川光治（富山大学），西野晃充（日本大学），小寺洋一（産業技術総合研究所）

P-57　海洋廃棄ポリスチレンによる日本沿岸のスチレンオリゴマー汚染の実態調査
○小泉公志郎（日本大学），佐藤秀人（日本大学短期大学部），岡部顕史，登川幸生（日本大学），小川直人，釜谷保志（静岡大学），小寺洋一，道祖土勝彦（産業技術総合研究所）

P-58　降水の溶存化学種から見た八王子の大気環境Ⅱ
○松塚雅博（杏林大学），伊豆田誠史（環境保健学研究会），石川友美（静岡県検査センター），関健介（杏林大学），後藤恭一（AERC研究センター），金子哲也（環境保健学研究会）

P-59　生態毒性物質の環境モニタリング
○亀屋隆志，小池瑛子，小沼一元，川田久美子，近藤貴志，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

P-60　宮城県内の津波被害森林土壌の回復
○伊藤和男（大阪府立大学高専）

P-61　酵素触媒を用いた二酸化炭素捕捉水和技術の開発
○島原秀登（北陸先端科学技術大学院大学）

P-62　可変速揚水発電による再生可能エネルギーの出力変動抑制
○佐藤　慧（東京農工大学）

P-63　富山市中心部における駅・バス停勢圏内外における緑地の特徴
○大西暁生（東京都市大学），前崎隆一（公務員）

企画シンポジウム

【　1日目　】

シンポジウム－1　　9月3日（火）　A会場（6F交流ホール）　9：45 ～ 12：15）

「小規模分散型放射性セシウム回収プロセスの実用化を目指して」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費
「担体固定化吸着剤を用いた環境中からの小規模分散型セシウム回収プロセスの実用化」

オーガナイザー　迫田章義（東京大学生産技術研究所）教授
中西友子（東京大学 大学院農学生命科学研究科）教授

挨　　拶：迫田章義（東京大学生産技術研究所）

趣旨説明：福島第一原子力発電所の事故以降，放射性物質による環境汚染が深刻な問題となっている。なかでも土壌汚染が最も深刻であり，枯草等の汚染も重要な問題となっている。現在，汚染土壌や枯草等を全て集積し隔離する除染法が提案され部分的に実施されているが，仮置き場をこれから造成するという現状も見られる。さらに，山林からの雨水流出･土壌飛散等によって，農地等が再汚染される可能性を否定できない。そこで我々は，汚染濃度等の状況や必要に応じて，集落あるいは農地単位で除染可能な小規模分散型放射性セシウム回収プロセスの開発を進めている（平成24年度～平成25年度）。本シンポジウムでは，このプロジェクトの成果中間報告を兼ねて，その実用化への道筋を議論する。

講 演 者：①「環境省環境研究総合推進費『担体固定化吸着剤を用いた環境中からの小規模分散型セシウム回収プロセスの実用化』の紹介」
迫田章義（東大・生研）教授

② 基調講演「福島第一原発事故から2年経ってわかってきた環境中の放射能動態」
中西友子（東大院・農）教授

③ 基調講演「除染の現状」
佐藤理夫（福島大・理工）教授

④「放射性セシウム除染布の開発」
石井和之（東大・生研）教授

⑤「プロトタイプ装置による汚染土壌からの放射性セシウムの除去・回収」
高橋勇介（東大・生研）特任研究員

⑥「プルシアンブルーのセシウム吸着条件の検討」
黒岩善徳（東大・生研）技術専門職員

⑦「プルシアンブルーへのセシウムの吸着速度」
藤田洋崇（東大・生研）助教

⑧「福島県内の土壌中放射性セシウム濃度計測」
島　長義（福島大・理工）特任研究員

⑨「植物灰中放射性セシウムのPB固定化布への移行」
工藤一秋（東大・生研）教授

⑩「除染土壌による植物栽培」
小平史圭（福島大・理工）学生

シンポジウム -2　9月3日（火） B会場（6F展示ギャラリー） 9：45 ～ 12：15

「環境科学と大学の環境教育の体系化　歴史・現状・未来　―自然環境系から見た大学の環境教育の制度化―」

オーガナイザー　内山弘美（名古屋大学）
増原直樹（環境自治体会議環境政策研究所）

趣旨説明：　本シンポジウムは，1990年代を通して開催されたシンポジウム「全体と要素」の理念を継承し，環境科学と大学・大学院レベルの環境教育，とりわけ環境を冠する学部・学科・大学院を中心に取り上げてきた。今回は，自然環境系の環境冠学科を対象として，自然環境科学の教育の現状と課題について議論を進める。工学系の学会員が多い中で，大学における自然環境系の環境教育について議論することは，ますます重要になるものと考えられる。

プログラム：第1部：理学系の環境冠学科における実践報告

①「学の環境教育の制度化と理学系の環境冠学科」
内山弘美（名古屋大・環境学）研究員

②「『地球の環境』か『地球と環境』か，それが問題」
宮本旬子（鹿児島大・理）准教授

③「横浜国立大学環境リスクマネジメント専攻の超域科学の取り組み」
松田裕之（横浜国立大学・環境情報研究院）教授

④「富山大学理学部生物圏環境科学科の現状と課題」
横畑泰志（富山大学大学院・理工学研究部）教授

第2部：総合討論
コメンテーター：増原直樹

シンポジウム -3　9月3日（火） C会場（9F-910会議室） 9：45 ～ 12：15

「2030年までの日本におけるライフスタイル変化：グローバル化やポスト総中流社会での多様化と影響要因の重層性」

プロジェクト名：国立環境研究所研究プロジェクト「持続可能なライフスタイルと消費への転換」

オーガナイザー　青柳みどり（国立環境研究所）室長
田崎智宏（国立環境研究所）室長

挨　　拶：オーガナイザー

趣旨説明：　持続可能なライフスタイルへの転換は様々な形で提唱され実行されてきたが，社会全体としてみると目に見える成果を生んでいるとは言い難い。また，持続可能社会の構築に向けた将来シナリオの検討では，モデル世帯を設定したり，重要な変化の分岐点をいくつか想定するなどして環境負荷量の推計やライフスタイルの描写がされてきたが，グローバル化やポスト総中流社会といった社会潮流の中で，生活者の願望や環境面以外のライフスタイル上の重要な内的要因と外的要因が複合的に関連し合っているという重層性や世帯モデルの多様性などは十分に考慮されてこなかった。本シンポジウムにおいては，ライフスタイルの重層性と多様性を持続可能社会転換の文脈でいかに考慮するかの中間的成果として，その方法論や具体的成果についての講演と討議を行う。

プログラム：

講 演 者：①「生活者視点での未来洞察の方法論とその適用」
粟田恵吾・冨永直基（（株）博報堂）

②「2030年の日本の世帯構成から考えるライフスタイルの変化」
金森有子（国立環境研究所）主任研究員

③「シナリオアプローチと専門家ワークショップによる2030年までのライフスタイル変化の把握」
田崎智宏（国立環境研究所）室長

④「健康を取り巻く社会動向とシナリオライティング」
吉田　綾（国立環境研究所）主任研究員

⑤「持続可能なライフスタイルへの転換に向けて～シナリオ描写から見えてきたもの」
青柳みどり（国立環境研究所）室長

討議

シンポジウム -4　9月3日（木）A会場（6F交流ホール）14：15 ～ 17：00

「旭硝子財団 環境研究近藤次郎グラント 発表会」

プロジェクト名：旭硝子財団　環境研究近藤次郎グラント　発表会

オーガナイザー　岡田光正（放送大学）教授
鈴木基之（放送大学）教授

挨　　拶：鈴木基之（東京大学名誉教授，旭硝子財団　環境研究選考委員長）

趣旨説明：　旭硝子財団では，平成22年度より「環境研究　近藤次郎グラント」研究助成プログラムの採択を行っている。助成対象は地球環境問題解決や持続可能な社会の構築に資する研究としており，たとえば新材料・プロセスや計測観測手法の開発，生態系の保全と再生，土地利用，環境教育などから年ごとに研究領域を特定して募集している。1件あたりの助成額は験研究700万円以内，調査研究400万円以内であり，研究期間は2～3年間，毎年5～6件の採択実績がある。本年は第2回目のプログラムの終了発表，ならびに中間発表の場として発表会を開催し，その成果を公開する。

講 演 者：①「リバースシミュレーションによる汚染源の特定に関する研究」（H22採択・終了）
加藤信介（東京大学）教授

②「バイオ液体燃料の有効利用を指向した新規燃料電池システムの開発」（H22採択，終了）
大友順一郎（東京大学大学院）准教授

③「森林性生物多様性の保全戦略－局所から広域までのスケールを考慮した森林マトリックスマネジメントの在り方について」（H24採択，継続中）
森　　章（横浜国立大学）准教授

休憩

④「購買時点での情報提供による消費者行動変化の都市規模での実証の研究」（H24採択，継続中）
石川雅紀（神戸大学大学院）教授

⑤「リチウムイオンの高速・高純度濃縮回収プロセスの開発」（H24採択，継続中）
武藤明徳（大阪府立大学）教授

⑥「新規カルシウムストロンチウムタングステン酸窒化物 CaxSr1-xWO2N の合成，結晶構造，光学的性質および電子構造［結晶構造に基づいた新規光触媒の開発：循環型エネルギー源を目指して］」（H24採択，継続中）
八島正知（東京工業大学）教授

シンポジウム -5　9月3日（火）B会場（6F展示ギャラリー）14：15 ～ 17：00

「低炭素型ライフスタイルを実現する都市環境と地域経済」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費
「低炭素と経済活性化を両立する生活・行動様式と地域環境デザイン方策の提案」

オーガナイザー　平野勇二郎（国立環境研究所）主任研究員
柴原尚希（名古屋大学）助教

挨　　拶：平野勇二郎（国立環境研究所）

趣旨説明：　低炭素社会を実現する上で，低炭素型ライフスタイルへの転換が重要課題である。これまでにも主に都市環境分野ではエネルギー消費の人間行動要因に関する研究が行われてきたが，その多くは例えば冷暖房や自動車利用など，生活者による直接的なエネルギー消費のみに着目していたと言える。実際には，ライフスタイルを改変した場合，消費パターンの変化によるサプライチェーンでの CO_2 排出量の変化や地域経済への影響など，様々なことを考慮する必要がある。このシンポジウムではこうした問題について考えるための情報交換を目

的とし，関連研究分野における様々な研究事例を紹介する。

講 演 者：①「低炭素型ライフスタイルを実現する都市環境の計画・評価方策の提案」
平野勇二郎（国立環境研究所）主任研究員
②「民生家庭部門における省エネ施策がもたらすマルチベネフィット」
川久保俊（法政大学）助教
③「資源の全体で効率的な利用に向けた評価手法に関する検討」
藤井　実（国立環境研究所）主任研究員
④「消費者行動の変化に伴う環境・経済への波及効果に関する分析手法の検討」
河尻耕太郎（産業技術総合研究所）主任研究員
⑤「再生可能エネルギー発電導入に伴う雇用創出の特徴―拡張産業連関モデルの応用」
稗貫峻一（横浜国立大学）大学院生
⑥「ライフスタイル - 商業立地の相互関係モデル」
戸川卓哉（国立環境研究所）特別研究員
⑦「地域 CO_2 削減策の統合影響評価モデルと地域特性に関する考察」
渡邉　聡（名古屋大学）助教
⑧「地域特性に応じた低物質・低炭素都市圏の規模と人口分布の検討」
奥岡桂次郎（名古屋大学）助教
⑨「公共交通システム導入の低炭素性評価における Consequential LCA の必要性」
柴原尚希（名古屋大学）助教

シンポジウム -6　9 月 3 日（木） C 会場（9F-910 会議室） 14：15 ～ 17：00

学術賞受賞記念シンポジウム

「環境動態・暴露モデルの化学物質リスク評価への貢献と今後の課題（Development of Environmental Fate and Exposure Models, and Their Contribution to Risk Assessments of Chemicals)」

オーガナイザー　吉田喜久雄（産総研）招聘研究員
長谷恵美子（住化分析センター）技師

挨　　拶：吉田喜久雄（産総研）

趣旨説明：　現在，化学物質のヒト健康および生態リスクの評価に活用されている環境動態・暴露推定モデルの多くは，1980 年代初めに開発された。その後のコンピュータの高性能化等に伴い，より精撤な推定が可能なモデルへとバージョンアップされ，現在では，化学物質リスク評価の暴露評価における必須のツールとなっている。本シンポジウムでは，環境動態・暴露推定モデルの開発の歴史を概説するとともに，一般化学物質による屋外・室内・労働環境でのヒト健康リスク，農薬による生態リスク，そして光化学オキシダント等の大気中二次生成物質によるヒト健康リスクの評価に焦点を当てて，モデルのこれまでの貢献と今後の課題について議論する。

講 演 者：①「環境動態・暴露推定モデルの開発と化学物質のリスク評価への貢献」
吉田喜久雄（産総研）招聘研究員
②「化審法のリスク評価における暴露評価モデルの活用」
玉造晃弘（NITE）主任
③「欧州 REACH および米国 TSCA の化学物質リスク評価におけるモデルの活用と今後の課題」
長谷恵美子（住化分析センター）技師
④「農薬の水域生態リスク評価における動態予測モデルの活用と今後の課題」
稲生圭哉（農環研）主任研究員
⑤「大気中 2 次生成反応を考慮する大気モデルの開発とリスク評価への適用」
井上和也（産総研）主任研究員

【 2日目 】

シンポジウム-7　9月4日（水） A会場（6F交流ホール） 9：30 ～ 12：00

「健康長寿社会の構築に向けた環境科学と食品栄養科学の役割」

オーガナイザー　坂田昌弘（静岡県立大学環境科学研究所）
下位香代子（静岡県立大学環境科学研究所）

挨　　拶：坂田昌弘（静岡県立大学環境科学研究所）

趣旨説明：　1世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））において，「健康寿命」とは，健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間と定められている。静岡県は健康寿命の全国ランキングで，男性2位，女性1位となっている。寿命に至るまでの生活の質を維持する「健康長寿社会」を実現するためには，多岐に亘る分野の科学的知見や技術を融合させていくことが必須である。その中で，静岡県立大学は薬学・食品栄養科学・環境科学に着目し，健康長寿社会の構築に向けた融合研究の推進に重要な役割を果たしてきた。本シンポジウムでは，健康長寿社会の構築に関連した最新の研究成果を報告するとともに，今後の研究の取り組みについて討論する。

講 演 者：①「環境中の発がん要因の検索」
若林敬二（静岡県立大学）教授

②「環境因子によるヒストン修飾変化－化学物質，食品成分等の複合暴露とその影響評価への応用」
伊吹裕子（静岡県立大学）准教授

③「24時間型社会における光環境ストレスの生体影響－乳がんと食品成分による予防－」
下位香代子（静岡県立大学）教授

④「生活習慣病と酸化ストレスバイオマーカー」
大島寛史（静岡県立大学）教授

⑤「疾病リスクに関連した栄養・代謝状態を総合的に判定するためのバイオマーカーとその応用」
合田敏尚（静岡県立大学）教授

シンポジウム-8　9月4日（水） B会場（6F展示ギャラリー） 9：30 ～ 12：00

「農薬変化体の環境安全管理を目指して」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費「農薬取締法における水質汚濁に係る農薬の登録保留基準見直しのための根拠データの取得」および環境科学会化学物質管理戦略研究会

オーガナイザー　高梨啓和（鹿児島大学）准教授
亀屋隆志（横浜国立大学）准教授

挨　　拶：高梨啓和（鹿児島大学）

趣旨説明：　環境水中の農薬モニタリング結果は多くの報告例が見受けられる一方，農薬分解物の結果は限定的と言わざるを得ない。そこで本シンポジウムでは，水中農薬類を効率的にモニタリングするために新しく開発された一斉分析技術を紹介するとともに，環境中の農薬原体および分解物を対象として実施されている研究成果を報告し，これを議論の土台として農薬および農薬変化体の環境安全管理をどのように目指すべきなのかを議論したい。

講 演 者：①**【論文賞受賞記念講演】**
「水道水中の農薬類のGC/MSおよびLC/MS/MS一斉分析方法の開発」
小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所）室長

②「水道法農薬を中心とした農薬・農薬分解物の河川モニタリング」
近藤貴志（横浜国立大学）研究員

③「河川における水稲用農薬の代謝分解物の挙動と生態毒性」
岩船　敬（（独）農林水産消費安全技術センター）専門調査官

④「LC-MSを用いたunknown screeningによる土壌燻蒸剤D-D塩素処理物中の変異原の探索」
高梨啓和（鹿児島大学）准教授

⑤「農薬分解生成物の浄水処理性評価」
松下　拓（北海道大学）准教授

シンポジウム -9　9月4日（水）C会場（9F-910会議室）9：30 ～ 12：00

「気候変動リスク・脆弱性を克服する地域からの適応社会の実現」

プロジェクト名：環境省環境研究総合推進費 S-8-2（1）「地域社会における温暖化影響の総合的評価と適応政策に関する研究」

オーガナイザー　田中　充（法政大学）教授
馬場健司（法政大学）特任教授

挨　　拶：田中　充（法政大学）教授

趣旨説明：　地球温暖化が一定程度進行し，社会への影響が不可避である現象が発生しつつあることを踏まえ，「気候変動適応策」の立案と実施が喫緊の課題となっている。地方自治体は，地域社会における様々なリスクの中で気候変動の影響やリスクを把握，位置づけ，持続可能で安全安心な地域社会を形成することが求められている。本シンポジウム企画では，環境省環境研究総合推進費 S-8-2（1）地域班が研究を開始して3か年が経過し，これまでに得られた研究成果のうち，地域社会へ気候変動の影響や，適応策の立案に向けたオプションのあり方，実装化に向けた社会的意思決定のあり方，政策過程における促進・阻害要因等について報告する。

講 演 者：①「気候変動適応の哲学と戦略」
安原一哉（茨城大学）名誉教授
②「日本の地方自治体における適応策実装の状況と課題」
白井信雄（法政大学）特任教授
③「簡易推計ツールの開発と適応策の策定支援～地域における気候変動影響評価」
肱岡靖明（国立環境研究所）主任研究員
④「適応策の実装化に向けたステークホルダー会議の試み」
馬場健司（法政大学）特任教授
⑤「地域における伝統の継承・活用と気候変動」
木村浩巳（法政大学）客員研究員
⑥「埼玉県における温暖化適応策への取組みと今後の展開」
嶋田知英（埼玉県環境科学国際センター）担当部長
⑦「長野県における適応策実装へ向けた取組みの成果・課題と対応の方向性」
陸　　斉（長野県環境保全研究所）主任研究員

シンポジウム -10　9月4日（水）A会場（6F交流ホール）13：30 ～ 16：15

「持続可能な発展指標の新たな体系と指標算定手法」

プロジェクト名：環境省環境経済政策研究「地域内外の影響を考慮した環境・経済・社会の評価指標と測定手法の開発」

オーガナイザー　中口毅博（芝浦工業大学システム理工学部）
栗島英明（芝浦工業大学工学部）

挨　　拶：オーガナイザー

趣旨説明：　我が国では，高齢化や人口減少，地域格差の拡大，自治体財政危機などにより地方の疲弊が深刻化している。これらの解決のためには「環境・経済・社会の統合的向上」の方向性を提示・促すことが必要であり，その基礎的ツールとして持続可能性を評価する枠組み・指標が必要である。そこで本企画では，国内外の持続可能な発展指標の動向や政策ニーズを踏まえ，指標の新たな体系と指標の算定手法について提案し，その有用性について議論したい。特に，地域内外に分離して環境負荷などを算定する考え方や手法，安全性・頑健性の視点からの指標体系，社会関係資本（ソーシャルキャピタル）の測定手法などに焦点を当てるものとする。

講　演　者：①「地域の持続可能性を評価する指標の体系の検討－トリプルボトムラインと人の観点から－」

○松橋啓介・田崎智宏・村山麻衣（国立環境研究所），
栗島英明･遠藤はる奈（芝浦工業大学），倉阪秀史（千葉大学），
中口毅博（芝浦工業大学）

②「4 資本モデルに基づく地域持続可能性指標について」

○倉阪秀史（千葉大学）

③「欧州自治体における持続可能性指標の現状と課題」

○松野正太郎・竹内恒夫（名古屋大学）

④「内子町における住民組織の取り組みと 4 つの資本」

○遠藤はる奈・中口毅博（芝浦工業大学）

⑤「リソースジェネレータによる社会関係資本の計測」

○栗島英明（芝浦工業大学）

シンポジウム－11　9 月 4 日（水） B 会場（6F 展示ギャラリー） 13：30 ～ 16：15

2012 年優秀研究企画賞受賞記念シンポジウム

「未規制化学物質の測定・評価・管理に関する最新研究課題　～高生産量化学物質から非意図的生成物まで～」

プロジェクト名：環境研究総合推進費「低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」

プロジェクト名：環境研究総合推進費「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」

オーガナイザー　堀井勇一（埼玉県環境科学国際センター）主任
三宅祐一（静岡県立大学）助教

挨　　拶：堀井勇一（埼玉県環境科学国際センター）

趣旨説明：　2002 年に開催された持続可能な開発に関する世界サミット（WSSD）において，「2020 年までにすべての化学物質による人の健康や環境への影響を最小化」することが合意された。既存化学物質については，特に高生産量化学物質を中心に環境安全性評価が行われている。一方で，非意図的生成物など未知物質を含めた未規制化学物質の評価・管理に関する研究課題は非常に多い。本シンポジウムでは，高生産量化学物質の環境に対する影響評価の例として揮発性メチルシロキサンに関する研究を，非意図的生成物の評価・管理手法の例としてハロゲン化多環芳香族炭化水素類に関する研究を報告する。また，今後注目される可能性がある化学物質に関する情報提供，最新の未知物質の計測・評価技術に関する研究成果などについても報告する。

講　演　者：①「環状メチルシロキサン類の東京湾モデリング調査」

小林敬司（シリコーン工業会）技術委員

②「揮発性メチルシロキサンの環境排出実態と生態環境影響の評価」

堀井勇一（埼玉県環境科学国際センター）主任

③「化学物質のリスク評価・管理の現場からみた研究課題」

平井祐介（独立行政法人製品評価技術基盤機構）主任

④「臭素系難燃剤 HBCD 製剤に含まれる低臭素化化合物の検出」

真名垣聡（武蔵野大学）講師

⑤「GCxGC/ 高分解能 TOFMS によるカズハゴンドウ脂皮抽出液のノンターゲット分析」

石井啓介（日本電子株式会社）

⑥「げっ歯類を用いた 7-chlorobenz[a]anthracene の生体影響評価」

榊原啓之（宮崎大学）准教授

⑦「廃棄物焼却により副生成するハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析」

三宅祐一（静岡県立大学）助教